

## 「神の喜ばれる教会」 マタイ16：15－18 堀田修一 19・11・17

### I 正しい土台の上に建てられている教会。

1. 教会の真の土台とは。

①「わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます」：18。

「この岩」とは=16節の「あなたは生ける神の子キリスト（救い主）です」という信仰告白。

②教会の土台は、イエス御自身。「その土台とはイエス・キリストです」（Iコリント3：11）。

③教会の土台は、聖書のみことば（エペソ2：20）。

2. 教会は誰のもの＝「わたしは、…わたし（イエス御自身）の教会を建てます。教会の所有者は、教会の為に奉仕をした人間ではない。世界中のどの教会も、真の所有者はイエスご自身である。〇〇宣教師の教会ではない。〇〇牧師の教会ではない。※私が気を付けている言葉使い。この41年＝「私の教会」ではなく「私が仕えさせていただいた主の教会」「私が仕えさせていただいている主の教会」。教会は主のもの。

3. 教会（神に呼び出されたクリスチャンの集まり、キリストのからだ、神の家族）の真の霊的な建て主は＝イエス御自身。「わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます」：18。これは、大きな励ましである。主イエスは、私達を用いて、教会を建て上げて下さるが、真の教会の建て主は、教会のかしらは、イエス御自身である。

### II 神の恵みを数え、神に感謝する教会。54年間の神の恵み。踏み出す信仰・試練・祝福

1965年11月21日：札幌東キリスト教会、最初の礼拝。8名出席。

1973年7月15日：献堂式。新会堂で初めての礼拝。

1989年11月18日：中高生バンドの特別演奏会。将来、いつの日か再び！祈ります。

1996年7月25日：有澤宣教師支援委員会発足。世界宣教に参加する恵み。

1996年12月12日：北海道聖書学院より175坪購入の契約を交わす。

1998年4月13日：教会名称「札幌聖書キリスト教会」に変更。

5月31日：旧会堂解体式・新会堂起工式

1999年1月24日：献堂式。北海道聖書学院の駐車場をお借りできている恵み。

※この20年間、今の会堂が、礼拝・祈り・交わり・伝道、他に豊かに用いられ続けてきた恵みを心から感謝したい。来年、会堂返済も完済する予定である恵みを心から感謝したい！

### III 試練の中に、神の御支配を認め、神に信頼し、霊的に訓練され、練られる教会

1. 「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10：29。神はすべての出来事を支配しておられる。偶然に起きる事、無意味な出来事は、一つもない。すべては神の御手の内にある。私達キリスト者には、偶然というものはなく、何かがたまたま起こる事もない。神は、全能の神、宇宙の主であり、ご自身の永遠のみこころに従って万事を動かしておられる。神は、ご自身の愛で、あなたを包んでおられる。御手の中で、私達の身に起こる出来事、試練、苦しみには、神による意味がある。※私達にはすぐには、その意味が分からない時もある。後に分かる事、天国で分

かる事がある。私達は、その出来事を通して、自らの罪と弱さを示される。悔い改め、神に立ち返り、神に近づき、神にもっと拠り頼む者に変えられる。教会も神に練り聖められる。

2. 「霊の父は私たち（個人個人も、教会も）の益（主の御姿への成長）のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。すべての訓練（苦しみや試練）は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるのですが、後になると（神の 때가満ちると）、これによって鍛えられた人々に、義（神との正しい関係）という平安な実（御霊の実）を結ばせます」ヘブル12：10、11。

3. 「見よ。わたしはあなたを練ったが、銀のようにではない。わたしは苦しみの炉であなたを試した（試練を与え、その中でも神を信頼するか試される）」イザヤ48：10。

#### IV 新しい事をなさる主に信頼し、新ビジョンを祈り求め、「宣教と成長」が前進する教会。

1. 「見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける」イザヤ43：19。

2. 「さあ今、あなたがたは、今日から後のことをよく考えよ」ハガイ2：15、18。さあ今、私達も、今日から後のことを良く考えたい。当教会は、次の世代を荷う若者を育てる必要がある。日本のすべての教団、すべての教会の課題である。しかし、今、信仰をもって立ち上がり、踏み出すなら、希望がある！信仰を持って踏み出すのはいつ？「今」である。「ヨルダン川は刈り入れの期間中で、どこの川岸にも水があふれていた。ところが、箱を担ぐ祭司たちの足が水際の水に浸ると、川上から流れ下る水が立ち止った。…水は完全にせき止められて、民はエリコに面したところを渡った」ヨシュア3：15、16。当教会は、まだ間に合う。今、与えられている子供達を大切に育てたい。若者たちを励ましたい。そして、若者担当の良き働き人を祈り求め、主の時に迎えたい！①牧師である私は、大人の方々への伝道と牧会に力を入れ「わたしに聞け。…胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す」（イザヤ46：3、4）。

②若者担当の働き人には、若い方々の伝道牧会に力を入れていただき（「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ」伝道者の書12：1）、働きを分担し、共同牧会をさせていただきたい。互いの間に主がおられ、良い協力関係をもって、尊敬し合い、祈り合い、共同牧会が祝福され教会を建て上げることができるよう。もし、御心なら、来年2020年4月からは、北海道聖書学院から奉仕神学生を送っていただき、2021年4月から、若者担当の働き人を迎えたいと祈っています。

※候補者は？お祈り下さい。主の 때가あります。2020年3月の総会で、若者担当の働き人を迎える時期を正式に決めたいと思います。大人も若者も生き生きとした教会を目ざし！

3. 「主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、それゆえ、あわれみを与えようとして立ち上がられる。主が義の神であるからだ。幸いなことよ、主を待ち望むすべての者よ」

イザヤ30：18。不純なビジョンではなく、神の栄光と人々の救いと成長のために聖なるビジョンを持つ教会を喜ばれる。信仰ある祈りに答え、必要を満たして下さる！